

2007年2月28日

受益者の皆様へ

安田投信投資顧問株式会社

昨日からの世界的株安・円高について

平素は格別のご高配を賜りありがとうございます。

さて、本日は昨日来の世界株安の流れを受けて東京株式市場は下落し、日経平均株価の対前日比は 2.85%、TOPIX 同 3.23%、ジャスダック 2.69%となりました。また、為替市場に関しましても、対前日比1ドル120.53円から118.44円(TTMベース)と約1.7%の円高、1ユーロ158.89円から156.72円(TTMベース)で約1.4%の円高となっております。今回の世界株安、円高の要因に関しまして下記ご報告申し上げます。

記

昨日来の世界的な株安・円高の要因として、中国株(上海総合株価指数)の急落、米国経済の一段の減速ないし失速懸念、国際投資資金などのポジションの一方向への傾き、地政学的リスク等が挙げられます。各項目別に状況を検討してみますと、

3月5日からの中国全国人民代表会議(全人代)を控え、中国株の急ピッチな上昇に対する警戒感の中、中国政府が株式投資規制を導入するとの懸念等が原因と見られますが、急激にファンダメンタルズ、企業業績に影響を与えるのではなく、急騰に対する反動という要因が大きいと考えられます(上海総合指数は昨年1年間約130%上昇)。

昨日発表の米国耐久財受注が大きく予想を下回ったことが、米国景気の先行き懸念を惹起しました。しかし、同じく昨日発表された中古住宅販売、消費者信頼感指数は予想を上回っており、悪材料ばかりではありませんでした。基本的には製造業の不冴えという、既に認識されている事態が裏付けられたということであり、それが、個人消費など他の分野へ広がっているわけではないと考えられます。

投資資金が、全体に、昨今の資産価格のボラティリティ低下を受けて従来以上にリスク資産のウェイトを高めていたことや、キャリートレードポジションを積み上げていたことは推測できます。したがって、これの巻き戻しも一方向となり、相場の振れが急拡大しました。この流れは、足の速い資金の動きが一服すれば、一段落するものと見込まれます。

1

*当資料に記載されているコメント、投資環境見通しについては、過去の実績等に基づいたもので、将来の投資成果等を保証するものではありません。

*当資料はご参考資料として、安田投信投資顧問が作成したものであり、証券取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申し込みにあたっては、販売会社を通じてあらかじめまたは同時に投資信託説明書(交付目論見書)をお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断下さい。

*当資料は、信頼できる情報源から得た情報に基づき構成されていますが、内容の正確性あるいは、完全性について明示、黙示に関らずこれを表明あるいは保証するものではありません。

米国によるイランへの攻撃の観測が高まっています。この問題自体は、先行きの読みにくい話であり、当面、相場への直接的な影響は小さいものと思われませんが、市場の不透明感を高める材料として意識しておく必要はあります。

以上の点を考慮すると、今回の株安、円高は、ファンダメンタルズに対する見方が大きく変わったというよりも、いくつかの悪材料が同時に生じたことで傾いていたポジションの巻き戻しが急激に起こったものと見られます。したがって、各資産とも目先はポジション調整の動きによりやや波乱含みながら、長期的なトレンドには変化がないものと判断しております。

以 上

2

* 当資料に記載されているコメント、投資環境見通しについては、過去の実績等に基づいたもので、将来の投資成果等を保証するものではありません。

* 当資料はご参考資料として、安田投信投資顧問が作成したものであり、証券取引法に基づく開示書類ではありません。取得の申し込みにあたっては、販売会社を通じてあらかじめまたは同時に投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので、内容を必ずご確認の上、ご自身でご判断下さい。

* 当資料は、信頼できる情報源から得た情報に基づき構成されていますが、内容の正確性あるいは、完全性について明示、黙示に関らずこれを表明あるいは保証するものではありません。